

4 平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者 評価 (3月12日 実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>① 研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。</p> <p>② 基礎学力の充実を図ると同時に、各科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。</p> <p>③ カリキュラムや各行事の充実を図りながら、授業時数の確保を目指す。</p>	<p>① 効果的な授業改善（ICT活用やアクティブ・ラーニング型を含む）に向けた研修を行い、生徒主体の授業を推進する。</p> <p>② 基礎学力の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養成する授業を実践する。</p> <p>③ 教育課程と年間行事を検討し、授業時数を確保する。</p>	<p>① 学校全体の取組みである授業見学で、授業の目標の設定に、ICT活用やアクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p> <p>② 基礎学力テストを1年生に3回実施し、学力向上に活用させる。また、教科を越えて結果を利用できるように工夫する。</p> <p>③ カリキュラム検討委員会を設置し、教科横断的な授業の設置、授業時数の確保における改善点等を検討する。</p>	<p>① 授業にICTやアクティブラーニングを取り入れたか。特に授業見学では活用ができたか。</p> <p>② 基礎的な学力において、生徒の弱点の克服、改善に向けた授業の工夫ができたか。全教科で基礎学力テスト結果の利用ができたか。</p> <p>③ 新しいカリキュラムの方向性が検討できたか。授業時数確保ができたか。</p>	<p>① ICTやアクティブラーニングを行う授業が増加した。特に、研究授業や授業観察では、大多数の授業で取り入れた。</p> <p>② 基礎学力テストを1学年で3回実施した。全体研修会、1学年担当での研修会を各1回実施した。</p> <p>③ カリキュラム検討委員会は2回開催した。方向性の検討はまだできていない。授業時間数確保は、1学年で年間35週を越え、達成できた。</p>	<p>① 年間で研究授業の接続性をさらに持たせる必要がある。</p> <p>② 基礎学力テストの結果を授業や生徒の取組に反映する点に大きく課題が残った。</p> <p>③ 授業時間確保のための改善点の検討や職員全体への周知、提案を実施できた。研究結果を授業や生徒に反映するための時間確保と全体の授業時間確保の調和を図ることが課題であり、課題改善により、学力差を縮めていく。</p>	<p>① 先端技術の研修を教員は積極的に受け授業改善に努める必要がある。</p> <p>② テスト結果を生徒に還元する方策をとるべきである。</p> <p>③ カリキュラムの検討は早めに行うべきである。</p>	<p>① ICT活用やアクティブラーニングは定着してきている。研究授業の継続性を図る必要がある。</p> <p>② 基礎学力テストを導入できたが、結果を生徒や教員に還元できていない。</p> <p>③ カリキュラム検討は進まなかったため、急ぐ必要がある。時間数確保と本校の特色を両立させるため平成30年度より55分授業を導入する。</p>	<p>① 年間の研究授業を計画的・組織的に行い、生徒主体の授業を推進する。外部講師による研修会や出前授業を活用し、授業改善を進める。</p> <p>② 2学年でも基礎学力テストを導入する。分析結果を全教科で共有する研修会を行い、データ提示方法を工夫する。</p> <p>③ カリキュラム検討委員会を年度当初から発足し、30年度中に基本方針を決定する。</p>
2	<p>① 生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③ 部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>① 生徒一人ひとりの生活指導を徹底し、社会人としてのルール・マナーを定着させる。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③ 部、委員会、農業クラブ、商友会活動の活性化を推進する。</p>	<p>① 挨拶の励行と服装や頭髪等の身だしなみの徹底、規範意識の向上を正門指導や校内巡回、学年集会を通して図る。携帯電話やSNSの正しい利用マナー徹底を図る。</p> <p>② 組織的で迅速な生徒指導及び各学年に教育相談コーディネーターを配置して、生徒等の相談体制を充実させる。また、いじめアンケートや事例研究から生徒の困り感を見逃さない。</p> <p>③ 各種行事において、生徒主体の生徒会活動への支援を行い、生徒のコミュニケーション能力と行動力を育む。また教員間での連携と情報共有の充実を努める。</p> <p>④ 顧問総会を定期的で開催し、課題や情報を共有し、部活動の活性化の支援を行う。</p>	<p>① 各種講演会や委員会の実施により、携帯電話や交通安全などのマナー・ルールの徹底を図られたか。</p> <p>② 学期や行事毎に目標を持った集会を通じ、各学年に応じた指導をすることができたか。</p> <p>③ 生徒指導に対して、組織的に取り組み、かつ生徒個々の状況に合わせた問題解決に取り組むことができたか。</p> <p>④ 多くの目で状況を確認し、事故の未然防止につなげ生徒個々の情報共有ができたか。</p> <p>⑤ 行事運営において生徒主体の円滑な運営ができたか。</p> <p>⑥ 生徒、教員間の共通理解を持った活動の支援が実施できたか。</p> <p>⑦ 顧問総会は定期的実施できたか。</p>	<p>① 講演会や集会は予定通り実施でき規範意識の向上を図れた。生徒個々の状況に対応した細やかな指導が行き届くように学校全体に情報共有と指導の徹底を伝え続けられたので、問題発見も早く、組織として迅速な対応ができた。</p> <p>② 体育祭、文化祭の種目や企画に生徒の意見を反映できた。</p> <p>③ 顧問総会を3回行った。朝打合せでのプリント配付や連絡で情報共有ができた。卓球部・ESS部等が全国大会等に出場し好成績を残した。</p>	<p>① 情報が伝わってこない事例もあり、更に学校全体で指導を行う必要性の共通認識を徹底していく。講演会や委員会などの生徒指導行事を年間計画に入れる日程調整が課題である。生徒に響く効果的な指導を行うためにも学校全体の行事の数の検討と設定が必要である。</p> <p>② 学校行事を生徒の活動として更に推進する必要がある。</p> <p>③ 教員間の共通理解は図れた。</p> <p>④ 部活動の加入率は、文化部が42.5%で前年度より10%増加したが、運動部は25.2%で5.4%減少した。部活動見学等を活性化し加入率を高めたい。</p>	<p>① 生徒指導に関しては評価できる。</p> <p>② 生徒を育成すべきである。</p> <p>③ 部活動加入率を上げる。部活動を魅力あるものとするために、活動内容や加入PRの工夫、外部指導者の増員をすべきである。</p>	<p>① 講演会や集会の時期の調整が必要である。</p> <p>② 生徒会行事は生徒の意見を反映して実行できた。本部役員や委員会を中心にさらに生徒主体で運営する必要がある。</p> <p>③ 部活動加入率は文化部では上がったが、運動部で下がってしまった。加入率を上げる。</p> <p>④ 顧問総会は計画通りに実施でき、教員間の情報共有や共通理解はできた。</p> <p>⑤ 学校全体として、活動の活性化に向けた検討が必要である。</p>	<p>① 講演会や集会は年間行事計画の中で他の行事との調整を図り、計画的に位置づける。生徒情報の共有方法や対応をさらに組織的に行う。</p> <p>② 体育祭や文化祭等では実行委員がさらに中心となって生徒主体で活動できる体制を作る。</p> <p>③ 学校全体として、部、委員会、農業クラブ、商友会活動の活性化を図る。特に部活動は、部活動見学の方法等を改善し、部活動加入率を上げる。</p>

3	進路指導・支援	<p>専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。</p>	<p>志望大学の新入試システムや就職関連企業等に関する情報等の収集及びデータ化を実施する。生徒一人ひとりの進路実現に向け、外部との連携を強めて連携企画を推進し、産業人としての基礎力を育成する。</p>	<p>過去のデータをもとに多様な進路実現に向け、基本的なマナー指導や各種ガイダンスを実施し、生徒が自主的に進路決定できるように指導する。基礎力診断テストや適性検査等のデータを活用するとともに、時機に応じて進路行事を行い、個々に応じた進路指導を行い生徒の進路意識を高める。上級学校や産業界等と連携をとり、インターンシップ・農業体験等への参加を継続的に促す。</p>	<p>データの収集や活用はできたか。進路行事の実施状況は適切で、生徒の進路意識を高めることはできたか。インターンシップ等への参加状況は前年度を上回ったか。</p>	<p>データベースソフトを導入し、データ収集を開始できた。進路行事は予定通りすべて行い、新たに1年で小論文講座を導入した。2年生の進路室利用が増加する等、生徒の進路意識を高めることができた。昨年よりもインターンシップ等への参加人数が減少した。</p>	<p>データ収集途中であり、今後完成させる必要がある。基礎学力テストのデータの活用を活発にすることが今後の課題である。進路行事は、内容の充実を図る。インターンシップは、上級学校や地域と連携し、参加数の増加に努めたい。</p>	<p>データの蓄積が必要である。データをもっと活用する必要がある。</p>	<p>データベースソフトを導入し、データ収集を開始できた。今後は、データの蓄積と活用が課題である。進路行事は、計画的に実施でき、生徒の進路意識を高めることができた。インターンシップ等への参加者を増加させることが課題である。</p>	<p>データ収集は、担当者中心にグループとして取り組む。データの提示方法や活用方法を工夫し、全教員で共有し、生徒や保護者に結果を還元できるようにする。インターンシップは、生徒への広報を積極的に行うとともに、魅力あるインターンシップ先を紹介する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。</p>	<p>①地域産業界との連携を組織的に進め、効果の検証、見直しを行う。 ②外部講師等を積極的に活用し、専門性の向上を図るとともに、教科・学科の枠を越えた教育活動を展開・発展させる。</p>	<p>①農業3科、総合ビジネス科で地域の企業や団体との連携事業を各科で2事業以上実施し、それぞれの専門性を高める教育活動の展開を深める。 ②農業3科、総合ビジネス科で外部講師による授業を各科で2回以上実施し、将来の進路選択を見据えた学習活動を展開する。</p>	<p>①各科で2事業以上実施し、専門性を高める教育活動の展開を深め、産業界に貢献することができるような取り組みができたか。 ②各科で外部講師による授業を2回以上実施し、将来の進路選択を見据えた学習活動を展開し、専門教育活動の充実につながられたか。</p>	<p>①全ての学科で2事業以上実施した。橋本公民館との包括連携協定を締結し、連携事業を複数回行った。 ②全ての科で外部講師による授業を2回以上実施した。</p>	<p>①今後はより積極的に実施して専門性を高めるようにしたい。 ②進路選択の幅を広げていくためにも、今後は科の枠を越えて、様々な科の生徒が、外部講師による授業を受けることも積極的に検討していきたい。</p>	<p>①連携事業の活発化は評価できる。 ②学科の枠を越えての活動を進めてほしい。地域連携活動や外部講師による授業は、実施場所等を明確にしてまとめ、より分かりやすく活動成果を記録に残すべきである。</p>	<p>①全学科で2事業以上連携事業を行えたが、さらに推進する必要がある。橋本公民館との包括連携協定を締結し、連携事業を複数回行ったが、継続実施が必要である。 ②全学科で、昨年度を上回る回数で、外部講師による授業を行った。さらに計画的に実施し、学科を越えた授業も行いたい。</p>	<p>①今年度以上に連携事業を行う。また、学科を越えた事業もより多く企画し、農商連携を推進する。 ②今年度以上に外部講師による出前授業を行う。また、学科を越えた授業も企画し実施する。</p>
5	学校管理学校運営	<p>①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。</p>	<p>①各種重要情報の取扱いにおけるマニュアルを見直し、管理の徹底と事故防止を図る。 ②防災備蓄品の整備を実施し、災害発生時の対応について地域との連携を検討する。 ③移転に向け、備品等の整理を行なうとともに、現在の教育環境の整備を行なう。</p>	<p>①各種重要情報の取扱いマニュアルを見直し。特に電子データの利用マニュアルやフォルダの見直しを行い、啓発のための研修会を行う。また、行政文書の適切な保存と廃棄も徹底する。 ②防災備蓄品の整備・更新を行い、分散備蓄場所の検討を更に進める。地域の災害対策への取組に関する情報を収集し、連携を検討する。 ③移転に向け、備品の整理・管理場所の整備を進め、職員に周知する。また、現在の教室設備・備品、用具の点検・整備を推進する。教室等で利用できるタブレットを整備し、利用啓発のための研修会等を実施する。</p>	<p>①マニュアルの見直しはできたか。電子データ文書の適切な保存と廃棄ができたか。研修会は行えたか。 ②防災備蓄品の整備・更新ができたか。分散備蓄の検討が進んだか。地域の災害対策の取組に関する情報を収集できたか。 ③備品の整理状況・管理場所を職員に周知できたか。現在の教室設備・備品、用具の点検・整備を行ったか。タブレットの配置数と授業等での利用頻度は前年を上回ったか。研修会は実施できたか。</p>	<p>①マニュアルの見直しは実施途中である。データの適切な保存廃棄ができた。研修会は未実施である。 ②全生徒と職員・PTA対象に喫食訓練を行い、備蓄品の整備・更新を行った。近隣医療機関の防災訓練を見学し災害対策の取組に関する情報を収集した。 ③備品のリスト化ができた。不要物品の廃棄が進んだ。タブレットの数は増加したが、セキュリティ問題が未解決で、研修会、授業での使用ともに未実施である。</p>	<p>①マニュアルの見直しをさらに進める。 ②備蓄倉庫の整理・整備、計画的な備蓄、分散備蓄の推進が課題である。地域の自治会や小中学校等の災害対策の取組に関する情報収集も進めたい。 ③移転に向けて30年度の計画を職員間での周知を徹底する。タブレットはセキュリティが解決され次第、研修会を開き、活用を進める。</p>	<p>①情報の取り扱いについては、研修会を開き、徹底していくべきである。 ②地域の防災体制を知り地域と連携をとる。学校からの要望も伝えていく必要がある。 ③タブレットの研修会は行うべきである。</p>	<p>①マニュアルの見直しは途中までできた。データの適切な保存廃棄ができた。研修会が実施で着なかったのが課題である。 ②備蓄品の整理はできたので、今後は購入を計画的に行う。地域の防災訓練を見学できた。地域との連携が課題である。 ③移転に向けての備品整理は進んだ。タブレットは活用に向け、授業での使用を活発化させる必要がある。また、研修会を行う必要がある。</p>	<p>①マニュアルの見直しを完全に終え完成させる。研修会を実施する。 ②防災用品の購入を計画的に行う。相模原市や地域との連絡を取り、連携体制を構築し災害時の対策を具体化する。 ③移転に向け、全職員で計画的に物品移動を行う。タブレットは、県と調整を行い、セキュリティ問題を解決し、活用する。研修会を実施する。</p>